



1・2_ グランケット桑折と学VIVAを視察し、町の賑わい創出や学習環境整備について意見交換 3_ 相互の協力関係を確

内堀雅雄県知事と高橋宣博町長の意見交換会が8月19日、グランケット桑折および役場で行われました。はじめに、内堀県知事は今年3月にプレオープンを迎えたグランケット桑折を視察。国道4号や駅から近い好立地であることや食材調達が可能であることな

ど、まちなかで気軽にグランピングが楽しめる施設の魅力を実感され、地域活性化に期待を込めました。また、いちい桑折店内にある学VIVAも視察し、学習環境の重要性などについて意見を交わすなど、県と町相互の協力関係を改めて確認しました。

町の施策について意見交換 内堀福島県知事が来町



1_ ピザスタ、リカーショップ旭屋などで販売中(順次拡大予定)
2_ 田中香代子副町長(左から2番目)に報告をする関係者の皆さん

町発祥のりんご「王林」を使った6次化商品「幸福の王林水ゼリー」が完成し、完成報告が8月30日、役場で行われました。同商品は、町産王林の果汁や(有)香村工業が手掛ける名水「香村金剛水」、脳の疲労回復に働くといわれるブドウ糖などを使用し、町内の山吉青果

で(☎572-3216)。

町発祥の「王林」を活用 「幸福の王林水ゼリー」発売

広告



voice 醸芳小 菅野 泰瑠 さん

平和記念式典で、みんなと一緒に黙とうをし、平和を願うことができたことはとても有意義でした。今、普通に生活を送ることができる大切さに気付かされました。資料館で見た目を覆いたくなるような展示品や被爆体験者の残酷な話などは、胸が締め付けられる思いでした。私にできることは、平和学習で学んだことをみんなに伝え、命の大切さや平和について、これからも考えていくことだと思いました。

voice 半田醸芳小 田中 彩瑛 さん

戦争を経験していない世代が多い今、戦争の記憶を風化させないためにも、私が見つけたことをたくさんの人に伝えていかなければならないと強い責任を感じました。一人一人が平和について考え、できることを実行することが大切ですが、何も知らないままでは行動することができません。まずは、過去に何があったのか、今世界では何が起きているのかを「知る」ことから共に始めていきましょう。

原爆投下の日に、広島を訪問
戦争・平和と向き合う3日間

平和学習派遣事業が8月5日から7日に行われ、各小学校6年生の代表児童5人が参加しました。児童らは、広島市の平和記念式典に参列し、市長による平和宣言やこども代表の平和への誓いを聞き、原爆の子の像に千羽鶴を奉納。被爆者体験講話では、当時の惨状を語る生の声に触れることができました。また、平和記念資料館では、戦争や原爆の悲惨さを物語る資料を目の当たりにし、現実起こった出来事と真剣に向き合うなど、児童らは、戦争の恐ろしさや平和の尊さを熱心に学びました。

voice 醸芳小 菅野 泰瑠 さん

平和記念式典の日、多くの外国人が街を行き交う姿が見られ、世界中の人々が平和を望んでいるのだと感じました。しかし、ロシアなどは式典に参列しておらず、今戦争をしている国こそ、戦争の怖さを知ってほしいと思いました。私は、今なお多くの人々を苦しめている原爆の恐ろしさを家族や友達に伝えながら、好きなことができる日常が当たり前ではないと思いながら、毎日を大切に生きていきたいです。

voice 睦合小 佐藤 結莉菜 さん

たった一発の原子力爆弾が14万人もの尊い命を奪い、生き残った方々も一生治ることのない傷を負いました。私は、その事実を知るだけでなく、一人一人の思いに自分を重ね、考えることが大切だと実感しました。過去の悲惨な出来事の上に今の平和があり、そのことを忘れると平和は崩れてしまうということを胸に刻み、これからも自分事として平和学習を続けていきたいと思っています。

voice 伊達崎小 渡邊 輝空 さん

資料館で見た写真には、爆風や放射線、熱線を浴びた方々が写されており、あまりの悲惨さに思わず「地獄と同じだ…」と呟いてしまいました。平和記念式典で子ども代表が述べた「平和への誓い」はとても力強く、平和を願うだけでなく、自分たちにできることや考え方を示していました。平和とは大人の誰かが考えてくれる他人事ではなく、私たちも自分事として考え、行動していかなければならないと強く思いました。